

剣岳 チンネ左稜線

【日時】 令和元年7月25～27日

【メンバー】 Y川 (L)、T

【概要】

25日 晴れ時々曇り

いつものように前夜は立山駅駐車場で車中泊し、7時20分のケーブルカーでアルペンルートを通り室堂へ。5月連休とは異なり外国人観光客は少なかった。

室堂からは、アップダウンの繰り返しである。水を背負って約25kg、ゆっくりと行くしかない。劔沢キャンプ場管理所で昼食を摂り、長い劔沢の下降に向かう。滝を過ぎてすぐ雪溪に移り、そのまま長次郎谷の出会いまで。ここからは、約600mの登りである。しばらく登ると、先行3人パーティが見え、途中で抜かして熊の岩へ。設営済みのテントは2張で、残雪が多くテン場があまり出ていなかったがまずまずのテン場を確保することができた。

26日 晴れのち時々曇り

朝3時20分に起床、アイゼンを装着し、長次郎谷右俣を辿る。すぐ前に昨日の3人パーティがいたが、追いつき挨拶を交わすと同じくチンネ左稜線であった。横浜の山岳会とのこと。

右俣上部は、雪溪はつながっていたが急傾斜で、ハンマーをバイル代わりに使用してピッケルと2本使って登った。久しぶりの池ノ谷乗越に到着、ここからはガレガレの池ノ谷ガリーの下降である。途中、昔は必ずクライムダウンした涸れ滝に行ってみたが、左側を簡単に巻くことができた。どうやら、学生時代はトレーニングのため涸れ滝をクライムダウンしたようである。

三ノ窓も残雪が多く、テン場はほとんど出ていなかった。再びアイゼンを付け、目印の逆4ノ字目指してトラバースする。10分ほどで取り付に到着、バンド状の所で準備して登攀開始。

1ピッチ目、凹角を抜けて左上するとビレー点である。少々岩が湿っぽいが、特に難しくは無い。ただ、真下で後続パーティが待っていたので落石には非常に気がついた。

2ピッチ目、ビレー点より少しだけ左に登り、凹角やクラックが混じったフェースの登攀、約45m。上半分は残置が少なく、適当なクラックもないので支点は取り難かった。終了点は明確で、広いテラスであった。3ピッチ目はTさんリード、右に上がり草付きバンドをトラバース後ルンゼだが、このルンゼを左の岩峰と右のチンネフェースとの間のルンゼと解釈してしまった。正解は、このルンゼではなく左岩峰のチムニー状ルンゼに入らなければならなかった。4ピッチ目、引き返すのもややこしいので、そのまま岩峰とフェース間のルンゼを登る。Ⅱ～Ⅲ級くらいであろうか、ちょうど岩峰を巻くような形でフェース前テラスに出た。ここからはフェース状のカンテを3ピッチ登り、ピナクル群の手前で切った。

8ピッチ目、ピナクル群であり難しくはないが、ロープの流れが悪かったので2ピッチで抜けて核心の鼻手前へ。10ピッチ目が核心とされる小ハング越えで、最初の小ハングはさほど難しくはなかったが、これを抜けて少し左に登った後の小ハングが、足場が少なかった。ただ、残置だらけなので支点には不自由しない。ここは、右上にガバホールドがあり、それを取ってマントリング気味に体を上げて通過した。その後は凹角に沿って登り、適当な所で支点を補強してビレー。11ピッチ目、続いて凹角を登って約20mで抜け、傾斜の落ちたリッジを少し辿ってビレー。ここからは高度間溢れるチンネ上部のリッジを辿る。ここはTさんにもリードしてもらうこととし、3ピッチかけ、計14ピッチで左稜線終了点に到着した。八ツ峰上部に人の姿も見え、アルパインクライミングの雰囲気浸ることができた。

終了点を使って三ノ窓の頭との間のコルに懸垂で下り、ここからは2回の懸垂で池ノ谷ガリーへ下降した。この懸垂の途中、三ノ窓の頭から池ノ谷ガリーに下っていたパーティが大落石を引き起こし、池ノ谷ガリーをものすごい速度で大きな落石が落ちて行くのが見えた。誰も居なかったからよかったものの、腹立たしいことであった。後ほど真砂沢ロッジのHPを見て気づいたのだが、三ノ窓の頭からの下降は懸垂で池ノ谷ガリーに下りて欲しいとの要望が書き込まれていた。

これは、歩いて下りると落石を池ノ谷ガリーに落としてしまうためであり、先ほどの落石はまさに歩いて下りた者達が引き起こしたものであった。

当初、右俣上部の傾斜が急であったので左俣下降も考えたが、やはり時間の誘惑には勝てず右俣下降とする。しばらく下ると前向きでは下り難くなり、後ろ向きとなってハンマーとピッケルを使いダブルアックスで下降した。谷が開けてくるとやっと傾斜も緩み、テン場へ到着、驚いたことに雪渓が1mほど後退していた。陽が当たると一気に雪解けが進むようで、つまりは、梅雨の期間中陽が射さなかったので残雪が多かったのであろう。いつものとおり、登攀後はのんびりと過ごした。

27日 晴れ後曇り

前日登攀後、ラジオで台風接近を知り、Dフェースは取り止め下山とする。また、Dフェース基部の雪渓が多く、崩壊の可能性が否定できないこともある。

撤収して長次郎谷を下って行くと、様々の人とすれ違った。全員が軽アイゼンで八ツ峰上半を目指していた7人ほどのパーティ、Cフェースを登攀すると言っていたがCフェースがどれか分からないパーティ、その他単独の方等、首を傾げるような方々であった。彼らの無事を祈りつつ、剣沢経由で室堂へ。室堂では雨も降り出したため、下山して良かったと二人で安堵した。

26日 室堂 8時45分 熊の岩 15時40分

27日 BC 4時45分 池ノ谷乗越 5時52~6時5分 三ノ窓 6時50~7時10分

チンネ左稜線取り付き 7時20分 登攀開始 7時40分 核心手前 10時35分

チンネの頭 11時23分 池ノ谷乗越 13時2~15分 BC 14時17分

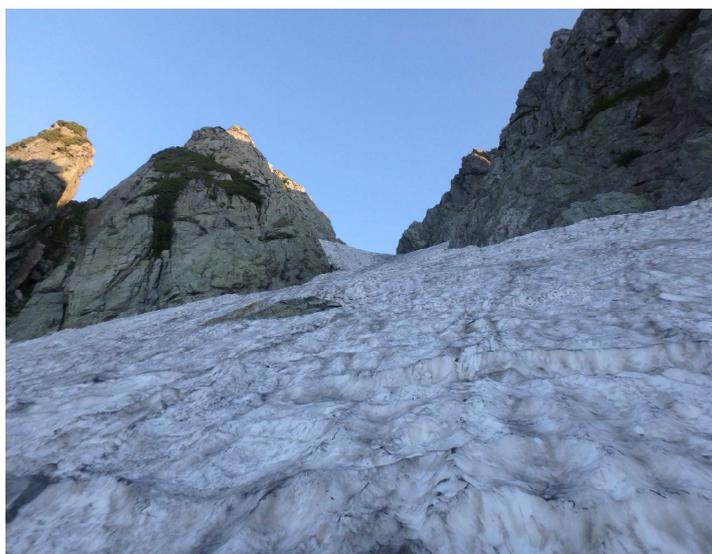
28日 BC 5時32分 室堂 11時26分



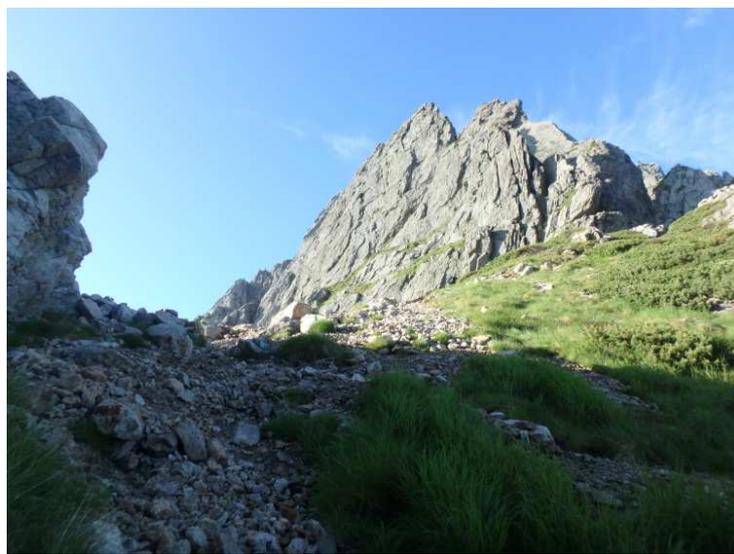
長次郎谷の長い登り



出発 右俣を登る



長次郎谷右俣の登り



三ノ窓に到着 チンネとジャンダルム



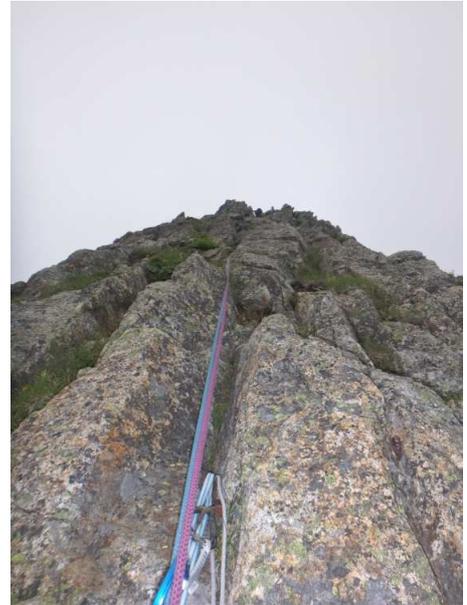
左稜線の取り付へ



ルートは？



アルパインの霧囲気が漂う上部 クレオパトラも



カンテ状のフェースを登る



チンネ上部と三ノ窓の頭



この上には立
てません



雪たっぷりのテン場



C、D フェース基部は雪渓